

## 第4章

# 「完全学校週5日制」と家族

三枝 恵子

「学校5日制」「新教育課程」が実施され6か月が経過した頃、この調査を行った。ゆとりをもたらすために導入された「学校5日制」であったが、授業時間が減り学力低下が心配される中、中学校では2学期制を導入したり定期考査や行事を削減し授業時間を確保したり、一方で土曜スクールや夏休みの補習などを行ったりして学力維持・向上を図ろうとしているのが現状であろう。こうした状況での学校生活は“ゆとり”とはほど遠い日々で、教師も生徒も常に時間に追われる学校生活のような気がする。

ここでは、「学校5日制」の本来の目的である「休日を増やし子どもが家庭や地域で過ごす時間を増やすこと」をふまえて、家族とのかかわりに視点をおき、「学校5日制」が生徒たちの生活にどのような変化をもたらしているのかをデータからみていきたい。

### 1. 中学生の家庭生活の変化

まず、「学校5日制」になってからの生徒の生活の変化をみてみよう。表4-1は土曜日が休みになってからの家での生活の変化を示した。最も変化があらわれているのは「親に『勉強しなさい』と言われるようになった」ことで、「とてもそうになった」と答えた生徒が22.4%、「わりとを含めると44.1%である。次いで、「とても+わりとそうになった」の数値でみると、「留守番をすることが増えた」30.1%、「お手伝いをすることが増えた」27.4%、「親とのコミュニケーションがうまくいくようになった」25.8%と続き、3割程度の生徒が「学校5日制」になって生活に変化がみられると感じている。逆に、「あまり+ぜんぜんそうならなかった」と答えた数値からみると、「親が勉強を見てくれるようになった」77.4%、「親が理解できるようになった」53.8%、「親とのコミュニケーションがうまくいくようになった」43.2%と高い数値を示しており、「学校5日制」

になっても生徒たちの家庭生活や親子関係に大きな変化が生じているわけではないようである。

性差では、「親に『勉強しなさい』と言われるようになった」「留守番をすることが増えた」では男子が、「お手伝いをすることが増えた」「親とのコミュニケーションがうまくいくようになった」では女子に若干数値が高くなっているが、大きな開きではない(表4-2)。

したがって、「学校5日制」になってからの生徒たちの生活は以前とほとんど変化がなく、あえて生活の変化を見いだすならば、「勉強しなさい」という親たちの増加をあげることができる。学力低下がマスコミで大きく取り上げられていることもあり、子どもの学習面を気にする親たちが増えた結果であろう。もっとも、親たちが子どもに「勉強しなさい」というのは「学校5日制」に限らない。子どもの顔を見れば、習慣的に「勉強しなさい」という親が多いのも事実である。また、親たちが土・日曜日に仕事などで不在ならば留守番もするだろうし、家庭にいる時間が増えれば多少お手伝いも増えるだろうと思われる。そう考えると「学校5日制」が生徒たちの家庭生活や親子関係に大きな変化をもたらしたとはいえないであろう。

そこでもう少し生活の変化をみるために、今年に入ってから土・日曜日を利用して家の人と泊まりがけの旅行に行ったかをたずねてみた。表4-3によれば、「1度もない」が71.1%と、7割の生徒は土・日曜日を利用して家の人と泊まりがけの旅行に行ったことはないと答えている。「行った」と答えた生徒の中で「1回ある」が14.2%と最大値を示し、「2、3回ある」の10.5%を合わせ24.7%と4人に1人となる。性別ではほとんど差がみられないが、学年別では「1度もない」と答えた割合が1年生64.4%<2年生72.2%<3年生77.0%と、学年が上がるにつれ家族で泊まりがけの旅行をしていないことがわかる。この数値は「学校5日制」実施が原因というよりも、学年が

表4 - 1 土曜日が休みになってからの家での生活の変化

	(%)				
	とても そうだった	わりと そうだった	少し そうだった	あまり そうなら なかった	ぜんぜん そうなら なかった
親に「勉強しなさい」と言われるようになった	22.4	21.7	19.9	17.3	18.5
	44.1				
留守番をすることが増えた	14.8	15.3	18.6	23.7	27.6
	30.1				
お手伝いをすることが多くなった	12.4	15.0	22.1	25.5	25.0
	27.4				
親とのコミュニケーションがうまくいくようになった	8.4	17.4	31.0	24.8	18.4
	25.8				
親が理解できるようになった	5.9	12.5	27.8	30.8	23.0
	18.4				
親が勉強を見てくれるようになった	3.5	6.8	12.3	25.8	51.6
	10.3				

表4 - 2 土曜日が休みになってからの家での生活の変化 × 性

	(%)	
	男子	女子
親に「勉強しなさい」と言われるようになった	47.6	40.5
留守番をすることが増えた	32.4	27.6
お手伝いをすることが多くなった	23.8	31.2
親とのコミュニケーションがうまくいくようになった	24.2	27.6
親が理解できるようになった	18.3	18.5
親が勉強を見てくれるようになった	9.1	11.6

「とても」+「わりと」そうだった割合

表4 - 3 今年に入ってから、土・日曜日に家の人と泊まりがけで旅行に行ったこと × 性・学年

	(%)				
	1度もない	1回ある	2、3回ある	4、5回ある	それ以上ある
全 体	71.1	14.2	10.5	1.9	2.3
男 子	69.4	15.1	10.9	1.7	2.9
女 子	72.9	13.2	10.0	2.2	1.7
1 年	64.4	15.9	13.6	3.1	3.1
2 年	72.2	15.0	9.9	1.4	1.4
3 年	77.0	11.5	7.8	1.2	2.5

進むにつれ部活動や高校進学で生徒自身が忙しくなっている結果と推測できよう。

それでは、親たちは土曜日、どんな生活をしているのだろうか。表4-4に、両親が土曜日に家庭にいるかどうかたずねた結果を示した。土曜日に父親が「いない」と答えた生徒は11.1%、母親4.8%である。「ほとんどいない」を合わせると、父親の4割、母親では2割が、土曜日に仕事などの理由で不在の場合が多いと考えられる。逆に、約5割の父親や約8割の母親は家庭にいるという現状は、親たちの生活にも「学校5日制」がかなり定着しているのではないだろうか。そうした親たちのライフスタイルのもとでは、「学校5日制」による子どもたちの生活の変化危惧は、マスコミで報じられるほどではなく、むしろ、親は土・日曜日が休日であっても、部活動などで土・日曜日を拘束されることにより、旅行など考えられないのではないか。

この調査の前に土・日曜日の過ごし方を親たちにヒアリングしたとき、親たちは部活動について「もっと熱心に活動してほしい」「休日まで部活動をやらなくても、土・日曜日は家庭の自由にしてほしい」との意見が相半ばしていた。休日を家庭や地

域に子どもを返そうとするならば、休日の部活動のあり方を学校・地域などで検討する必要がある。

ここで、今回調査対象になった家庭の雰囲気や生活を簡単にみておこう。表4-5によれば、「夜10時すぎて外出するとき」は「必ず注意されるだろう」と答えた生徒が67.0%、「夜遅くまでテレビを見ているとき」「友だちと長電話をしているとき」「夜12時すぎまで起きているとき」は3~4割である。夜遅くの外出以外、すなわち危険を伴うこと以外は、比較的子どもの生活を見守っているような傾向がみられる。

これまでみてきたように、「学校5日制」実施後の生徒たちの生活には変化がみられない。しかし、親たちにとっては「学校5日制」による授業時間の減少とそれに伴う学習内容の削減は、子どもたちの学力低下を心配し直前に迫った高校進学を考えると不安感も強くなることも否めない。子どもに「勉強しなさい」という親の心情も理解できる。

では、親たちは「学校5日制」をどう考えているのだろうか。ここでは中学生の目を通して、親たちが「学校5日制」をどう考えていると思うかたずねてみた。表4-6によれば、「とても賛成している」9.1%、「たぶん賛成している」の30.4%

表4-4 土曜日にお父さん、お母さんが家にいるか

お父さん				お母さん			
いつもいる	わりといる	ほとんどいない	いない	いつもいる	わりといる	ほとんどいない	いない
12.8	39.6	28.6	11.1	34.3	40.7	17.7	4.8
52.4				75.0			

「その他」は省略

表4-5 家庭で注意されること

	必ず注意 されるだろう	たぶん注意 されるだろう	あまり注意 されないだろう	ぜんぜん注意 されないだろう
夜10時すぎて外出するとき	67.0	20.8	6.7	5.5
夜遅くまでテレビを見ているとき	39.0	27.0	19.7	14.3
友だちと長電話をするとき	28.6	29.3	23.6	18.5
夜12時すぎまで起きているとき	27.2	24.4	25.3	23.1

表4-6 親は「学校5日制」をどう思っているか × 性・学年

	とても 賛成している	たぶん 賛成している	たぶん 反対している	絶対 反対している	わからない
全 体	9.1	30.4	22.2	5.6	32.7
	39.5		27.8		
男 子	9.8	28.1	22.5	5.9	33.8
女 子	8.3	33.0	21.9	5.2	31.6
1 年	10.8	32.4	22.1	6.8	27.9
2 年	8.8	30.5	19.3	5.6	35.9
3 年	7.5	28.3	25.1	4.3	34.8

を合わせると、4割の親たちが「学校5日制」を肯定的に受け止めていることがわかる。一方、「たぶん+絶対反対している」が27.8%、「わからない」が32.7%と、若干賛成しているだろうと考える中学生の割合が高い。性別、学年別にみてもほとんど差がみられないが、やや1年生に親は「学校5日制」に賛成していると考えている割合が高い。

## 2. 親たちの意識と「完全学校週5日制」

「学校5日制」が実施される直前の親たちには、子どもたちが家庭で「ごろごろしている」「何もすることがないようで、そばでみているとイライラする」「ゲームばかりしている」など、休日が増えることによるマイナスのイメージが強かった。地域、行政による子どもたちの“受け皿”体制も整っていないことが指摘され、家族の負担が多いのではないかと心配されることが多かった。そこで、親たちの「学校5日制」に対する賛成・反対の態度により、子どもたちの生活にどのように差が生じるのかを探ってみる。

親は「学校5日制」をどう思っているかとたず

ねた項目(表4-6)の「とても+たぶん賛成している」と答えた39.5%を賛成群、「たぶん+絶対反対している」の27.8%を反対群としてクロス集計をした結果でみていくことにする。

表4-7は、土曜日が休みになったことを子どもたちはどう感じているかたずねた結果との関連を示した。表の数値は「とてもそう思う」割合を示しており、「たいくつだ」については「ぜんぜんそう思わない」割合を示している。賛成群の家庭の子どもたちは、「学校5日制」になって「うれしい」66.5%、「楽しい」50.9%、「のんびりする」42.2%、そして「たいくつだ」と「ぜんぜんそう思わない」割合が43.4%と4割を超え、反対群の家庭の子どもたちとの差が大きく開いている。「学校5日制」に賛成の親たちの子どもは、土曜日が休みになったことがうれしくて、楽しくのんびりと過ごしており、休みが増えたことでたいくつする様子もないことがわかる。

次に時間の使い方の差を表4-8で比較してみよう。「とても+わりと増えた」数値で比較すると、「親と過ごす時間」が「とても+わりと増えた」と答えた割合は賛成52.5%>反対40.6%と11.9ポイントと最も差が顕著である。次いで差が

表4-7 土曜日が休みになって思うこと×親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)		
	賛成	反対	差(賛成-反対)
うれしい	66.5	44.0	22.5
楽しい	50.9	26.1	24.8
のんびりする	42.2 >	25.3	16.9
たいくつだ*	43.4 >	24.5	18.9

「とてもそう思う」割合 \*は「ぜんぜんそう思わない」割合  
>は10ポイント、 は20ポイント以上の差

表4-8 時間の使い方の変化×親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)		
	賛成	反対	差(賛成-反対)
趣味のことをする時間	59.9 >	51.8	8.1
友だちと過ごす時間	59.6 >	52.6	7.0
親と過ごす時間	52.5	40.6	11.9
睡眠時間	49.3 >	40.5	8.8
いろいろなことを考える時間	48.3	45.1	3.2
自分で勉強する時間	48.3 >	41.1	7.2

「とても」+「わりと」増えた割合  
>は5ポイント、 は10ポイント以上の差

開いている項目は、「睡眠時間」で賛成49.3% > 反対40.5%、「趣味のことをする時間」は賛成59.9% > 反対51.8%、「自分で勉強する時間」は賛成48.3% > 反対41.1%、「友だちと過ごす時間」賛成59.6% > 反対52.6%となり、「学校5日制」賛成の家庭では、親と過ごす時間や睡眠時間が増えていることがわかる。

それでは「学校5日制」実施に対して、中学生はどのような意見を持っているのかをみておこう。表4-9によれば、「学校5日制」賛成の親の子どもたちは、「自分の進路を考える時間が作れた」と感じ、反対の親の子どもたちは「一層、できる子とできない子の差が広がる気がする」「ただらした時間を過ごしてしまいそうだ」「学校がないと、何となく不安だ」とネガティブな感じ方が強くなっている。

次に、中学生たちは土曜日が休みになったことをどう評価しているのだろうか。表4-10は、土

曜日も学校があった方がいいかとたずねた結果を示した。表によれば、「学校5日制」に賛成の親の子どもたちは、「絶対あった方がいい」と答えた割合は2.9%にすぎず、「できればあった方がいい」を合わせても、土曜日に学校があった方がいいと考える生徒は15.7%と2割未満である。一方、反対の親の子どもたちは「絶対あった方がいい」12.1%、「できればあった方がいい」27.0%を合わせ約4割にも達し、学校への期待や依存が高い傾向がみられる。それでも土・日曜日に家族で泊まりがけの旅行に行っている割合は「学校5日制」賛成・反対でほとんど差がみられない(表4-11)。

次に、土曜日が休みになってからの家での生活の変化を比較してみよう。表4-12から、「とても+わりとそうだった」の数値が最も開いている項目は、「親に『勉強しなさい』と言われるようになった」が賛成の親の子ども41.9% < 反対の親の子ども54.0%と12.1ポイントの開きがみられる。

表4-9 「学校5日制」になって感じる事 × 親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)		
	賛成	反対	差(賛成-反対)
一層、できる子とできない子の差が広がる気がする	56.8	66.7	- 9.9
ただらした時間を過ごしてしまいそうだ	51.8	< 69.1	- 17.3
いろいろな人と知り合う機会が増えた	46.8	38.1	8.7
将来のための準備・勉強ができるようになった	46.4	> 34.7	11.7
自分の進路を考える時間が作れた	39.3	35.9	3.4
学校がないと、何となく不安だ	18.6	< 31.8	- 13.2

「とても」+「わりと」そう思う割合 > は10ポイント以上の差

表4-10 土曜日も学校があった方がいいか × 親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)			
	絶対 あった方がいい	できれば あった方がいい	できれば ない方がいい	絶対 ない方がいい
賛成	2.9	12.8	38.2	46.1
反対	12.1	27.0	36.5	24.4
	15.7			
	39.1			

は20ポイント以上の差

表4-11 今年に入ってから、土・日曜日に家の人と泊まりがけで旅行に行ったこと × 親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)				
	1度もない	1回ある	2、3回ある	4、5回ある	それ以上ある
賛成	68.3	13.4	12.6	2.2	3.4
反対	69.6	14.9	10.2	2.5	2.8

次いで、「親とのコミュニケーションがうまくいくようになった」(賛成33.3% > 反対24.2%)、「親が理解できるようになった」(賛成24.4% > 反対17.5%)、「お手伝いをするようになった」(賛成33.3% > 反対27.2%)と、「学校5日制」に賛成している親の子どもたちは、親子関係が良好に緊密に変化した様子がうかがえる。

表4-13では、家庭の雰囲気を経験の「学校5日制」賛成・反対で比較した。「必ず注意されるだろう」の数値で比較すると、「夜10時すぎて外出するとき」「夜遅くまでテレビを見ているとき」「友だちと長電話をするとき」「夜12時すぎまで起きているとき」とすべてで、「学校5日制」反対の親に若干多いことが認められる。

「学校5日制」を家庭生活に視点を当て、子どもからの意見をまとめてみた。中学生からみたら、「学校5日制」には大きな変化がみられない。しかし、中学生が属する家庭が「学校5日制」をど

のように捉えているか、余暇時間をどのように活用しようとしているのかで、子どもたちの生活に大きな開きがみられた。「学校5日制」に賛成の家庭の子どもたちは、親子で過ごす時間や親子のコミュニケーションが増え、土曜日がうれしく楽しくゆったりと過ごせる。親子で過ごす時間や親子のコミュニケーションが増えたことを肯定的に評価している。こうした家庭では「学校5日制」は親子でまあまあよかったのではないかとの共通した考え方をしていることがわかる。一方、親が反対の家庭の子どもは「一層、できる子とできない子の差が広がる気がする」「ただらした時間を過ごしてしまいそうだ」「学校がないと、何となく不安だ」と不安感が強く、学校があった方がいいと考えている。今後の課題として、「学校5日制」に反対の親たちの不安を解消するような地域や行政の受け皿や学校のあり方を早急に検討する必要がある。

表4-12 土曜日が休みになってからの家での生活の変化 × 親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)		
	賛成	反対	差(賛成-反対)
親に「勉強しなさい」と言われるようになった	41.9	54.0	- 12.1
留守番をすることが増えた	31.5	32.2	- 0.7
お手伝いをするようになった	33.3 >	27.2	6.1
親とのコミュニケーションがうまくいくようになった	33.3 >	24.2	9.1
親が理解できるようになった	24.4 >	17.5	6.9
親が勉強を見てくれるようになった	12.0	11.5	0.5

「とても」+「わりと」そうだった割合  
>は5ポイント、 は10ポイント以上の差

表4-13 家庭で注意されること × 親たちの「学校5日制」賛成・反対

	(%)	
	賛成	反対
夜10時すぎて外出するとき	65.8	74.8
夜遅くまでテレビを見ているとき	39.5	45.3
友だちと長電話をするとき	27.4	34.2
夜12時すぎまで起きているとき	28.2	30.4

「必ず注意されるだろう」の割合